

とちぎ発

元気農業

ふるさととちぎ21活性化塾だより



平成24年

54号

理事長就任に当たって

公益財団法人栃木県農業振興公社理事長

(ふるさと21活性化塾長) 吉沢 崇

去る6月18日、野中前理事長の後を引き受け、公益財団法人栃木県農業振興公社理事長に就任した吉沢です。よろしくお願いたします。

さて、本社は昭和46年3月に設立された財団法人栃木県農業公社の発足から、41年が経過し、その間、県の外郭団体として農業振興の一翼を担ってきました。

おかげ様で4月1日からは公益財団法人として、新たなスタートを切りましたが、新法人ではこれまで以上に高い公益性が求められると同時に、経営の健全化や組織の透明性、中立性、公平性が期待されております。このため、本公社としましては、①農業・農村への貢献、②地域の活性化、③指定管理の受託、④公社経営基盤の安定化を、将来の大きな目標に据えております。

また、事業推進に当たりましては、関係機関・団体と密接な連携を図り、本公社が策定した長期戦略構想、「栃木県農業振興公社戦略ビジョン」に基づき、地域資源活用による農村の活性化事業を始めとして、食と農の絆づくり事業、農地保有合理化事業など8つの事業を積極的に展開して参る所存であります。

本紙は年2回、ふるさと21世紀活性化塾の活動や経営構造対策事業などの取組に加え、農村活性化に関する事業の紹介など、県内のタイムリーな情報を提供してきました。今後ともこの情報紙が、関係者の皆様の御期待に応えられるよう企画、編集して参る所存でありますので、引き続きの御支援、御協力をお願い申し上げます。



吉沢理事長

桂事務局長

目次

- 2 進化する「道の駅はが」
- 3 栃木6次産業化サポートセンターの取組
- 5 6次産業実践者の販路開拓を支援
- 6 原子力発電所事故に伴う、
農産物直売所の現状と支援のための調査結果
- 7 とちぎ夢大地応援団カレッジ活動
- 8 児童画コンクール
写真コンテスト
食と農実践講座



生産者と消費者が出会い触れ合う！ 進化する「道の駅はが」



道に駅はがのシンボルとんがり帽子

とんがり帽子がシンボルとなっている「道の駅はが」は、県道69号線沿いにあり、平成14年4月に「友遊はが」と「ロマンの湯」を併せて登録され、今年で10年が経過しました。

芳賀町は、平成13年に地域農業・農村の活性化の拠点として「経営構造対策事業」を導入し、敷地面積1.5haに農産物等の直売所、アイスクリーム工房、総菜工房と体験室などを整備し、これらを「友遊はが」と総称して、町農業公社が管理を担ってきました。

一方、以前にオープンしていた地下1,500mから湧き出る温泉施設「ロマンの湯」は、道を挟んで西側に隣接し、「友遊はが」と併設の形になりました。

この両施設を一体とする道の駅の登録を機会に、町・商工会・農業協同組合が出資した第3セクター方式での運営に一新して、現在に至っています。

道の駅を統括する駅長を中心に、関係者一丸となって取り組んだ結果、平成23年度の来場者数は60万人を超えています。

施設の中核は何と言っても直売所で、運営は地元の「はが野農業協同組合」が担っています。開駅当初は生産者が70名であったものが、現在250名にまでに増えて、売上額も2億数千万円に達しています。地元農家の朝取り新鮮野菜や手作りの加工品、安全・安心で美味しい旬の味を消費者に届けるため、毎月、農協と生産者で品質や出荷量、お客様への対応等の打合せを行っています。また、品切れ商品の防止と売れ行き状況を、出荷者へ一日8回携帯電話で配信するなど、消費者との信頼関係に努めています。さらに、町の特産農産物である「なし」を使った加工品も品揃えし、積極的に販売しています。



直売所



なし加工品

▶酪農家が運営するアイス工房



アイス工房は地元酪農家が製造・販売しており、季節のトマトやいちご・なし等を使った手作りのジェラートを常時15～20種類販売しています。

当道の駅では今後とも、農業・農村の活性化のため施設運営の充実を図ると共に、消費者（お客様）に感動と生産者に喜びを提供できるよう日々努力をしています。



栃木6次産業化サポートセンターの取組

公益財団法人栃木県農業振興公社では、昨年度から始まった国の6次産業総合推進委託事業に取り組み、平成24年度においても引き続き事業の委託を受け、「栃木6次産業化サポートセンター」を社内に設置しました。

サポートセンターでは、本県が有している農産物等の地域資源を最大限に活用し、創意と工夫を生かした6次産業化に取り組む農業者等に対し、専門的な知識を有する6次産業化プランナーを派遣して、農業の高付加価値化や農村の活性化を推進していきます。

なお、現在までの国の6次産業化総合化事業計画の認定状況、及び今年度の支援体制、平成24年度事業計画は次のとおりです。

6次産業化総合化事業計画認定一覧（栃木県）

No.	事業者	市町村	事業内容	認定年月日
1	(有)那須高原今牧場	那須町	自家産生乳を活用したチーズの製造・販売	H23. 5. 31
2	(生法)(株)兼愛農場	宇都宮市	自家産米を活用した米粉パン、米粉ラスクの製造・販売	H23. 10. 31
3	(有)いちごの里湯本農場	小山市	自家産いちごと小麦を活用したシロップ、飲料、カステラの製造及びカフェでの販売	H24. 2. 29
4	加藤農園	矢板市	自家産りんごを活用したジュース、ジャム、コンポートの製造・販売	H24. 2. 29
5	(有)星種豚場	那珂川町	自家産豚肉を活用したハム、ソーセージ、精肉の製造・販売	H24. 2. 29
6	(生法)戸崎農園(株)	壬生町	自家産紅あずまを活用したアイスの製造・販売	H24. 5. 31
7	林農産加工(同)	茂木町	地場産農産物を活用した漬物、惣菜、スイーツの製造・販売	H24. 5. 31
8	(株)遊食ファーム研究会	宇都宮市	自家産ブルーベリーと露地野菜を活用したスムージー等の製造・販売	H24. 5. 31
9	(生法)(株)前田牧場	大田原市	自家産牛肉を活用した熟成精肉、ローストビーフの製造・販売及びカフェでの新商品開発	H24. 5. 31
10	ふかさわ梨園	大田原市	自家産梨を活用した万能たれの製造・販売	H24. 5. 31

H24. 5. 31まで



◇平成24年度事業計画

(1) 個別相談会

新商品の開発や販路開拓等の6次産業化を目指す農業者等の課題や問題点に対し、解決に向けた助言を行う個別相談会を県内各地で10回開催します。

- ① 地方相談会…県農業振興事務所7カ所で開催
- ② 中央相談会…とちぎアグリプラザで3回開催

(2) 「とちぎ6次産業化実践塾」

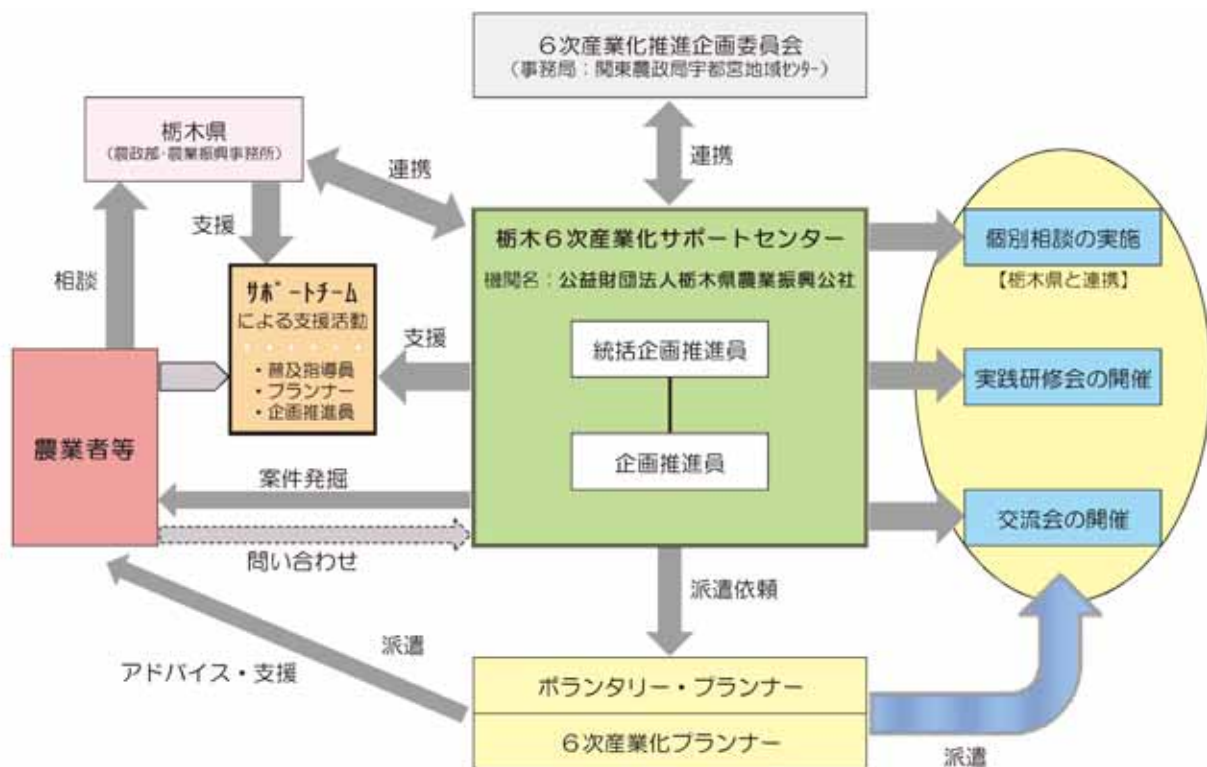
本県農業を切り拓く若き人材を育成するため、(株)ファーマーズ・フォレスト代表取締役社長の松本謙氏を塾長に迎え、マーケティング、商品設計、知的財産、販売戦略等の専門分野に加え先進事例のグループワークの研修会を全6回開催します。

(3) 交流会

県内農業者等の6次産業化総合化事業計画認定の取組状況についての事例を発表し、広く普及啓発を行います。

あわせて、農業者等と異業種の交流による連携の強化を図るために交流会を開催します。

6次産業化の支援体制図



問い合わせ先

栃木6次産業化サポートセンター（公益財団法人栃木県農業振興公社 農政対策部内）
 TEL：028-648-9511 FAX：028-648-9517



6次産業実践者の販路開拓を支援

(公財) 栃木県農業振興公社では「フードバレーとちぎ農商工ファンド事業」を活用し、アグリフードEXPO2012において、6次産業化総合化事業計画の認定を受けた、農業者の農産物加工品の販路の開拓や加工品の知名度向上を支援しました。

具体的には、2012年春、那須高原に新たにチーズ工房をオープンし、牛舎から絞りたてで鮮度の高い生乳や山羊の乳を原料とするフレッシュタイプチーズをメイン商品として加工する「有限会社那須高原今牧場」と自家農場の新鮮な豚肉を使用して、時間と手間を惜しまずじっくりと手を掛けて丁寧に薫製してハム類を加工している「有限会社星種豚場」の2社が出展しました。

出展期間の2日間に、商品開拓に関心のある多くの方々ブースへ訪れ食味をしており、商品の高評価を得たことや出展者への反響も良かったことから、今後の販路開拓に繋がることを期待されています。



好評であった商品の説明と試食



(有)那須高原今牧場が出品した
フレッシュタイプチーズ



(有)那須高原今牧場の若い後継者夫婦がチーズ工房をオープン



(有)星種豚場が出品した
手作りハム・ソーセージの数々



原子力発電所事故に伴う、 農産物直売所の現状と支援のための調査結果

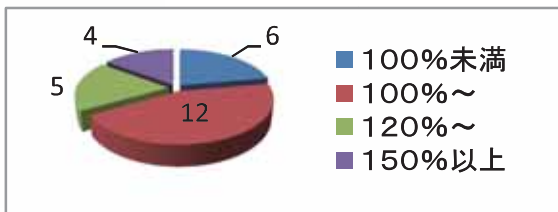
東日本大震災から1年、県では農産物のサンプリング調査を実施し、山菜や原木しいたけ、葉物野菜などが出荷制限されるなど、農産物直売所を巡る経営環境は、大変厳しいものでした。

そこで、当会社の都市農村交流施設活性化推進員と栃木県交流サポーター連絡会会員が訪問し、現状を伺って来ましたので、その結果をお知らせします。

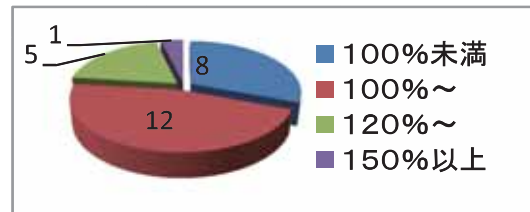


1 来客数の推移（前年同月比） 直売所数

3月

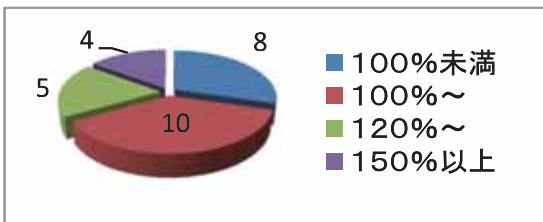


4月

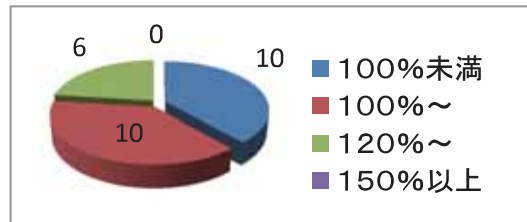


2 売上高の推移（対前年同月比） 直売所数

3月



4月



- ・ 来客数の伸び率の高い所は、昨年の震災時に休業期間があった反動増と思われます。
- ・ 山間部に位置し比較的小規模な直売所は、山菜類の出荷停止や近隣保養施設廃止などの影響で、大きな減少となりました。
- ・ いちごやトマトなど販売力の強い品目に特化した直売所ほど、好調な集客力が見られました。
- ・ 規模の大きい直売所は、出荷停止品目が占める割合が低いため、震災から立ち直り比較的堅調な運営となりました。

3 震災後影響を受けた商品

- ・ 山菜、原木しいたけ、たけのこ、茶など

4 震災後に販売の伸びた商品

- ・ いちご、トマト、根菜類、米、加工品など

5 その他

- ・ 県北地域を中心に、山菜の出荷停止や風評被害による売上げ減がありました。
- ・ 県外からの観光バスの減少も、少しずつ回復傾向にあるようです。
- ・ 震災から1年経過し、安全安心を求めるお客さんが戻りつつあります。



とちぎ夢大地応援団カレッジ活動 鹿沼市中柏尾「和田用水ホタルの里公園」で開催

次世代を担う高校生・専門学生等が農地保全活動へ参加し、農業農村の必要性や重要性について理解を深め、豊かな農村環境の維持・保全と継承を目的に「とちぎ夢大地応援団カレッジ活動」を実施して2年目を迎えました。

今年度の第1回は「和田用水ホタルの里の会」が「学校法人TBC学院宇都宮本校（宇都宮市大通り1-2-5）」の公務員学科、IT会計学科、福祉いきが学科で専門教育を受けている学生28名と引率の先生3名を迎えて活動を行いました。

ホタルの里公園で開会式を行った後、女子学生が水路の清掃と生き物調査、男子学生が遊休農地の草刈りの作業を行いました。

○水路清掃・生き物調査

水路周辺の草刈りを行った後、水路内に生息す

る水生昆虫を勉強しました。「毎月行っている草刈り作業なので大変助かりました。」と感謝していただきました。

○遊休農地の草刈り

全員初めて使う草刈り機に挑戦。はじめはおそるおそる戸惑い、1時間もしないうちに農家並にできるようになり、習得の早いことに地元の方も感心していました。また学生からは「きれいになってサッパリした」との言葉が聞かれました。

○交流会

ホタルの里の会で提供していただいた昼食をいただき、交流会では参加者一人一人が感想を発表しました。「勉強になりました。機会があればまた参加したいです。」との言葉に地元の方も心強くしました。



参加者全員



水路周辺の草刈り



水生昆虫の勉強



草刈り



交流会



平成24年度（第21回）ふるさととちぎ農業・農村児童画コンクールの募集

活力ある農業の姿や農村の情景に親しみ、これらを描くことによって農業・農村のすばらしさを知るとともに、優秀作品を展示して広く県民の方々に農業・農村の理解と関心を深めていただくために開催します。

1. 応募資格 県内の小学校で学ぶ児童
2. 募集テーマ 私が描く農業・農村
作業の風景、農家の人々の暮らし、市場や農産物直売所の情景、体験農業の様子など
3. 作品の規格 B3の画用紙（1～4年生はB4でも可）
4. 応募方法 小学校でとりまとめ、9月5日までに市町の農政担当課に送付して下さい。

5. 表彰
小学年（1～2年生）、中学年（3～4年生）、高学年（5～6年生）の区分毎に、最優秀賞（栃木県知事賞）各1点、優秀賞（栃木県教育長賞・栃木県農政部長賞）各2点、優良賞（ふるさととちぎ21活性化塾長賞）各10点
6. 入賞作品の展示
10月20～21日に開催される「とちぎ“食と農”ふれあいフェア2012会場（栃木県庁15Fロビー）」で展示します。
また最優秀賞・優秀賞作品は、とちぎアグリプラザ3階ロビーで常設展示します。

参考 23年度最優秀賞作品

下野市立薬師寺小2年
嶋田 和也さん
「栃木の特産物
かんぴょう」



野木町立南赤塚小3年
平野 恵里香さん
「なす畑でびっくり!」



真岡市立大内西小6年
田中 美有さん
「かんぴょう大収穫」

平成24年度（第19回）美しいとちぎのむら写真コンテストの募集

美しい農村地域の風景や四季折々の自然を将来を担う中・高生に撮影いただき、参考 平成23年度最優秀作品 広く農業・農村への理解と関心を深める契機とする。

1. 応募資格 県内の中学校・高校に在学する生徒
2. 応募テーマ 躍動する農業・農村の姿を撮ってみよう
部門1 農業に生き生きと携わる人々の姿
部門2 農地、水、農村環境を守る活動
3. 応募資格 四つ切又はA4版カラーもしくは白黒プリント（デジタル合成処理は不可）
4. 応募上の注意 作品は県内でフィルムカメラ、デジタルカメラで撮影した未発表の写真
応募点数は5点以内
5. 応募方法 応募写真の裏に応募票を貼付けし、11月30日までの期間に農業振興公社に送付して下さい。
6. 表彰
最優秀賞 各部門1点（栃木県知事賞）
優秀賞 各部門2点（栃木県農政部長賞）
入選 各部門10点以内（主催者賞）

7. 入賞作品の発表
入賞作品は公社ホームページで紹介する。
平成25年2月23日～3月1日に栃木県庁15階展望ロビーで展示します。



矢板高等学校1年生
酒主 拓哉さん



鹿沼市立栗野中学校1年生
五味田 朱音さん

つながろう！食と農実践講座 ～とちぎの豊かな食と農の理解の輪を広げよう～

- 当公社では、とちぎの豊かな食と農の理解の輪を広げるため、平成22年度から「つながろう！食と農実践講座」を開催しています。
- 3回目となる今年度のテーマは、「知って・見て・体験して、そして、楽しく食べて食と農の理解を深め、伝えましょう」で、9月から「食」「農」「地域（の取組）」「（農村の豊かな）環境」に関する計9回の楽しみながら学べる講座を開催しています。
- 本講座の大きな特色として、楽しく受講していただくため、受講者どうしのコミュニケーションを促進させるための講座（演習）や講座で学んだ知識や得た情報などを伝えていただくためのノウハウを習得する講座（ワークショップ）も盛り込むなどの工夫も凝らしています。
- 今後とも、当公社が実施する食と農の理解促進に向けた取組に御理解と御支援をよろしくお願いいたします。



とちぎ発 元気農業 ふるさととちぎ21活性化塾だより54号

発行日 平成24年8月17日
編集・発行 ふるさととちぎ21活性化塾
所在地 〒320-0047 宇都宮市一の沢2-2-13
(公財)栃木県農業振興公社内
TEL 028(648)9511(代) FAX 028(648)9517
URL : http://www.tochigi-agri.or.jp
Eメール : info@tochigi-agri.or.jp

